

ノーリフティング推進事業所登録制度 実施状況チェックリスト

法人名：

事業所名：

記入者氏名：

記入日：令和 年 月 日

項目	実施状況				取組内容・取組予定	点数
管理者の意識	<input type="checkbox"/> 実施しようとしている（1点） 管理者が取組について今後認める予定である。	<input type="checkbox"/> 不十分だが実施している（2点） 管理者が活動を認めてはいるが、関与できていない。	<input type="checkbox"/> 実施している（3点） 管理者自らが必要性を感じ普及促進に向けて行動している。	<input type="checkbox"/> より良く実施できている（4点） 管理者自らがノーリフティング普及推進リーダーとしての役割を果たしている。		
推進チームの有無	<input type="checkbox"/> 実施しようとしている（1点） 委員会・チームの立ち上げを実施しようとしている。	<input type="checkbox"/> 不十分だが実施している（2点） チームはあるが、組織内で認められたものではない。	<input type="checkbox"/> 実施している（3点） 組織内で認められた委員会・チームがあり、組織の体制づくりやリスクの解決に向けて活動している。	<input type="checkbox"/> より良く実施できている（4点） 委員会があり、定期的な会議が開催され、組織全体のリスクマネジメントを実践している。		
ノーリフティング視点でのリスクマネジメント	<input type="checkbox"/> 実施しようとしている（1点） ノーリフティング視点でのリスクマネジメントを始めようとしている。	<input type="checkbox"/> 不十分だが実施している（2点） ノーリフティング視点でのリスク抽出はしているが、計画立案から実践、評価、改善等の対応が不十分である。	<input type="checkbox"/> 実施している（3点） ノーリフティング視点でのリスクを抽出し、計画立案から実践、評価、改善などが実践できている。	<input type="checkbox"/> より良く実施できている（4点） 「実践している」にプラスして、さらに日々、職員からヒヤリ・ハットが積極的に出され、労働安全衛生水準が向上している。		
職員の健康管理	<input type="checkbox"/> 実施しようとしている（1点） 職員の腰痛予防のための調査や対策をしようとしている。	<input type="checkbox"/> 不十分だが実施している（2点） 腰痛調査はしているが定期的には実施しておらず、リスク社への対策もできていない。	<input type="checkbox"/> 実施している（3点） 定期的に腰痛調査を実施し、リスクのある職員への対応もしている。	<input type="checkbox"/> より良く実施できている（4点） 「実施している」にプラスして、新入職員には配置前に実施している。腰痛は減少または悪化が見られない。		
対象者のアセスメントプランニング	<input type="checkbox"/> 実施しようとしている（1点） ノーリフティングの視点を持ったアセスメント・プランニングの流れや担当などの体制を作ろうとしている。	<input type="checkbox"/> 不十分だが実施している（2点） ノーリフティングの視点も考慮しアセスメントの流れに沿ってプランニングし、ケア実践ができているが、完全に周知徹底できていない。	<input type="checkbox"/> 実施している（3点） アセスメント・プランニングの流れは体制として完備されている。内容もノーリフティングの視点でアセスメント・プランニングされ、周知徹底と統一したケアが実践されている。	<input type="checkbox"/> より良く実施できている（4点） 「実践している」にプラスして、日々の中でリスクがあればすぐにケアの見直しが行われる体制がある。ケアの手法はケアプランに盛り込むなど、周知する方法が決まっている。		
職員教育	<input type="checkbox"/> 実施しようとしている（1点） 教育体制ができていないが、職員はノーリフティングの目的や必要性を学ぼうとしている。	<input type="checkbox"/> 不十分だが実施している（2点） 職員はノーリフティングの目的や必要性を理解しているが実践はまだ不十分である。	<input type="checkbox"/> 実施している（3点） 教育体制ができており、計画的に実施されている。職員はノーリフティングの目的や必要性を理解して身を守る身体の使い方や作業方法を守り実践できている。	<input type="checkbox"/> より良く実施できている（4点） 「実施している」にプラスして、新入職員には配置前研修が実施され、経験者にも定期的にチェックが行われている。職員みずからがリスクを抽出する週間が身についている。マニュアルも完備している。		
福祉用具の導入	<input type="checkbox"/> 実施しようとしている（1点） 必要な用具が不足し、介護者一人での抱え上げを実施しているが、リスクの高い対象者への介護者一人での抱え上げに対する負担を理解している。	<input type="checkbox"/> 不十分だが実施している（2点） 用具は不足しているが、複数での介助など代替え手段で負担軽減ができている。導入の計画は立案できていない。	<input type="checkbox"/> 実施している（3点） 不足している用具もあるが、導入計画は立案され、不足しているものは代替え手段が実践している。担当による用具の管理もできている。	<input type="checkbox"/> より良く実施できている（4点） 必要な用具はほぼ充足しており、担当による用具の管理もできている。身体的負担のある「抱え上げ介助」は0になっている。		
合 計						

登録において求められる状態

管理者	<ul style="list-style-type: none"> ●ノーリフティングは労働安全のための取り組みであり、管理者みずからが、抱え上げケアや持ち上げ・不良姿勢など身体に負担のある業務は、職員と対象者を守る観点から行わせてはいけないことを理解して取り組むことが必要です。 ●環境整備や業務・教育体制など組織の労働安全の体制を整えるために、ノーリフティング推進リーダーとして計画的に行動実践していることが求められます。
推進チームの存在	<ul style="list-style-type: none"> ●組織においてノーリフティングを推進するためには、組織で認められた腰痛予防対策推進チームの存在が重要となります。 ●マネジメントチームとして機能していることが大切であり、そのチームメンバーは、統括マネージャー、職員の健康管理担当、教育担当（教育企画担当・技術教育担当）、個別ケースプランニング担当、福祉用具導入計画・管理担当などからなり、各々の役割が明確で、実践機能していることが求められます。
ノーリフティング視点でのリスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ●ケアだけでなく、すべての作業において身体的負担、リスクのある作業は抽出されることが必要です。職員からヒヤリ・ハットをいかに多く集めることができるか、またそのリスクに対して腰痛予防対策推進チームが検討・対策(計画立案(P)→計画実施(D)→実施結果を評価◎→評価を踏まえて見直し、改善(A))をしていく、このリスクマネジメント体制ができていくことが重要です。 ●この取り組みを繰り返し、組織の労働安全衛生水準を向上させることが求められます。
職員の健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ●職員一人ひとりの健康を守り、腰痛予防を実践するためには、教育や環境整備などの予防的な対策がなされることは必要です。 ●職員のリスクを抽出するためには、腰痛調査が定期的に行われ、職員の健康状態を把握できていることも重要です。 ●職員の健康管理担当を決めて計画的に調査すること、リスク保有者に対して対策を立てることが求められます。
対象者のアセスメントプランニング	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての対象者にノーリフティングの視点をもってプランニングすることが必要です。アセスメント・プランニングの担当（個別ケースプランニング担当）が決まっており、周知徹底までの体制（いつ、どこで、誰が、どのようにアセスメント・プランニングし、どのように周知徹底するか）が決まっていることで、ノーリフティングケアが実践できます。 ●ノーリフティングケアは介助者が安全に働けるだけでなく、個々の対象者がそれぞれ安全・安心・快適なケアを受けることを可能にします。そのためにも適切なプランニングをすることが重要です。
職員教育	<ul style="list-style-type: none"> ●安心して働ける職場づくりに向けてノーリフティングを実践するためには、職員一人ひとりが目的や必要性を理解し、その具体的な手法であるノーリフティングケアを習得することが重要です。そのためには教育が必要であり、担当者を決定し、計画的にノーリフティング教育を実践することが必要です。 ●新人教育から経験者を含めたキャリア教育など、ヒヤリ・ハットの抽出、技術知識の確認をする教育体制をつくりましょう。 ●職員が行動を明確にするためのマニュアル作成も必要です。
福祉用具の導入	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉用具によるケアだけがノーリフティングケアではありませんが、重度障害をもつ対象者が多い事業所では安全性や業務効率を考慮しても用具の整備は必須です。 ●すぐにすべての環境を整えることは困難でも、事業所にどのような用具が必要なかは把握し、導入計画が立案されていること、またリスク管理のためにも用具の担当者を決めて管理することは必要です。 ●福祉用具の置き場所を決めることや整理整頓することなど、危険を減らして安全に働ける環境を心がけます。